

科目名	運動器障害理学療法学特論	担当教員	小林匠 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	--------------	------	-------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	4年次	後期	2単位	講義

科目概要	筋・骨関節系に関わる人体構造機能学や「運動学」などの“基礎医学”，“理学療法評価学”，「運動器障害理学療法学」，「運動器障害理学療法学演習Ⅰ，Ⅱ」などの理学療法治療学にて得られた知識・技術と，「臨床実習」にて得られた経験を統合し，運動器疾患に対する理学療法が行えるようになるための発展的な学習を目的とする。運動器疾患に関わる理学療法士として臨床現場で働くだけでなく，地域社会に貢献するために必要な専門知識と問題解決能力を養うことを目標とする。
学習目標	運動器疾患に関わる理学療法士として臨床現場で働くだけでなく，地域社会に貢献するために必要な専門知識と問題解決能力を身につける。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	肩関節1	肩関節疾患の病態と理学療法評価	代表的な肩関節疾患の病態を理解し，適切な理学療法評価を実施できる。	
2	肩関節2	肩関節疾患の理学療法	代表的な肩関節疾患に対する理学療法プログラムを立案，実施できる。	
3	肘・手関節1	肘・手関節疾患の病態と理学療法評価	代表的な肘・手関節疾患の病態を理解し，適切な理学療法評価を実施できる。	
4	肘・手関節2	肘・手関節疾患の理学療法	代表的な肘・手関節疾患に対する理学療法プログラムを立案，実施できる。	
5	脊柱1	脊柱疾患の病態と理学療法評価	代表的な脊柱疾患の病態を理解し，適切な理学療法評価を実施できる。	
6	脊柱2	脊柱疾患の理学療法	代表的な脊柱疾患に対する理学療法プログラムを立案，実施できる。	
7	股関節1	股関節疾患の病態と理学療法評価	代表的な股関節疾患の病態を理解し，適切な理学療法評価を実施できる。	
8	股関節2	股関節疾患の理学療法	代表的な股関節疾患に対する理学療法プログラムを立案，実施できる。	
9	膝関節1	膝関節疾患の病態と理学療法評価	代表的な膝関節疾患の病態を理解し，適切な理学療法評価を実施できる。	
10	膝関節2	膝関節疾患の理学療法	代表的な膝関節疾患に対する理学療法プログラムを立案，実施できる。	
11	足部・足関節1	足部・足関節疾患の病態と理学療法評価	代表的な足部・足関節疾患の病態を理解し，適切な理学療法評価を実施できる。	
12	足部・足関節2	足部・足関節疾患の理学療法	代表的な足部・足関節疾患に対する理学療法プログラムを立案，実施できる。	
13	スポーツ傷害1	上肢スポーツ外傷・障害の理学療法評価・治療	代表的な上肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法プログラムを立案，実施できる。	
14	スポーツ傷害2	脊柱スポーツ外傷・障害の理学療法評価・治療	代表的な脊柱のスポーツ外傷・障害に対する理学療法プログラムを立案，実施できる。	
15	スポーツ傷害3	下肢スポーツ外傷・障害の理学療法評価・治療	代表的な下肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法プログラムを立案，実施できる。	

評価方法	筆記試験（80%）・平常点（20%）
教科図書	運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版（南江堂）
参考図書	病気がみえる vol.11 運動器・整形外科（メディックメディア） 運動機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略（医学書院） 関節機能解剖学に基づく 整形外科運動療法ナビゲーション（メジカルビュー社） 膝関節理学療法マネジメント（メジカルビュー社） 足部・足関節理学療法マネジメント（メジカルビュー社） 股関節理学療法マネジメント（メジカルビュー社） 運動器障害理学療法学 I・II 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト（中山書店） クリニカルリーズニングで運動器の理学療法に強くなる！（羊土社）
学習の準備	運動器障害理学療法学，運動器障害理学療法学演習 I・II の内容を復習しておくこと
オフィスアワー	在室時はいつでも可能
担当教員欄に※印を附した教員の 実務経験	